

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階草原通り)

事業所番号	2793700101		
法人名	セントラルポイント(株)		
事業所名	グループホームきらめきTOWN 2階草原通り		
所在地	摂津市鳥飼下3丁目31-14		
自己評価作成日	令和5年12月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和6年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しみのあるイキイキTOWN

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体セントラルポイント(株)は大阪府下(高槻市、摂津市、吹田市)にデイサービス、放課後デイサービス、就労支援事業所等を運営している。当事業所は2021年、9番目の事業所(グループホームは初)として鉄筋3階建ての2・3階部分に2ユニットで開設され、1階にはデイサービスを併設している。「楽しみのあるイキイキTOWN」を本年度スローガンとし、毎週のレクリエーション、行事、生活リハビリなどを職員の輪番制で考え、利用者一人ひとりが毎日を楽しみながら安心して日常生活が送れるように支援している。コミュニケーションツールとしてラインを利用し、利用者の様子を写真入りで家族に伝え、日常ケアについても職員間で共有し万全の体制がある。外国人職員もいるが、翻訳機能を利用し細やかに支援している。利用者の表情は穏やかでその人らしい生活ができていことが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスであるという定義の理解はあるものの、コロナ禍の3年で実践はかかっておらず	法人の行動指針「一、利用者の為になるのか 二、利用者の家族の為になるのか 三、互いに尊重しあえているか」に基づき、職員皆で考えた本年度スローガンを「楽しみのあるイキイキTOWN」とし、毎月の全体会議で説明・唱和を行い、目標・達成状況を記録し、日々振り返りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者連絡会には参加し、市開催のイベントには参加	地域活動の情報は地域の回覧板により得ている。コロナ禍により地域活動には参加していないが、昨年9月には近隣幼稚園の園児の訪問があり、歌・体操・ゲームなどを利用者も一緒に楽しんだ。当月はボランティアを受け入れ、摂津市出身の演歌歌手の訪問予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者連絡会開催の認知症研修の協力		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	紙面でのやり取り	会議は自治会長(鳥飼下・鳥飼西自治会)2名、摂津市高齢介護課職員をメンバーに偶数月に開催しているが、書面会議としており、利用者・家族の参加はない。運営状況、行事・事故報告等を記録しメンバーには議事録を配布している。今後は会議を対面で、事業所の行事開催日に合わせて行うなど、参加しやすい会議の開催を検討中である。	議事録は丁寧でわかりやすく記載されており、意見・要望などの記入欄もあるが未回答となっている。メンバーからの意見収集の仕方を工夫し、サービス向上に活かせる会議となることを期待する。また今後対面会議が開催されれば家族代表の会議への参加や議事録を家族全員に送付することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告	市の高齢介護課は運営推進会議のメンバーでもあり運営への理解を得ている。市主催の介護フェスティバルに参加し、利用者は手作り作品を出展している。生活保護受給者が4名おり、ケースワーカーとは電話で連絡を取り合っている。市の介護相談員の訪問も月1回ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の開催・研修の実施	身体拘束適正化の指針を作成し、委員会を3カ月ごとに開催している。研修は年間研修計画に基づく研修(動画視聴含む)と随時必要時に行い、受講後はレポートを提出し理解を深めている。安全のため1階入り口、ユニット入り口は施錠している。人感センサーを使用している利用者もいるが、利用者・家族に説明し了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の開催・研修の実施		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修会の参加		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読み上げ説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との連絡事項はlineで誰でもが確認できる体制である	利用者には日常ケアの中で要望を聞き、家族にはラインにより、利用者の様子を写真入りで知らせ、連絡を取り要望も聞いている。聞いた内容は職員間で共有できるようにしている。ユニット中央の低めのカウンター内には、職員がおり、利用者や来所した家族等との話しやすい雰囲気ができている。家族との外出・外泊の要望や食事形態(おかゆ)の希望も叶えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議で意見徴収	職員が意見を述べる機会は毎月のユニット会議、全体会議があるが、連絡用と利用者へのケアについての2種類のラインを使用し、常に新しい情報を職員間で共有している。これらのことから最近では利用者のおやつ在庫をおやつ管理表に記載することや職員の体制表に入浴介助の担当者名を入れることなどの改善事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時など一人ひとりと話す機会の確保		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職など指導の担当を入れる・内部研修は動画を利用し全員参加できる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会があれば参加している(摂津市内・市外)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と話し意向を傾聴するよう心掛ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時・面会時など意見を伺うとともに、line 交換し問い合わせいただきやすい環境の提供		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	デイルームの配席など定期的に見直し検討		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などラインで写真などをお送りしご様子を伝える		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類に移行した後、散歩に出る、コンビニへ行くなど	昨年4月から面会制限を解除し、利用者の居室での面会、家族との外出・外泊を支援している。法人の運営するデイサービスを経て入居した利用者には、デイサービス職員の訪問がある。年初に夫の入居施設を家族と訪問した利用者もいる。友人の訪問はないが年賀状を家族が持参する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必ず食事はデイルームで他者とともに召し上がる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所の相談を受ける		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室はご自身の好きなものを置いてもらっている	利用者の意向・希望はマンツーマンでの散歩時や入浴介助時などに聞いている。こまめな声掛けとその時の表情を見て汲み取ることもある。意向に沿って、昼食の後は居室で自由に過ごしたり、皆で集まって話す利用者もいる。把握した内容は申し送りノートに記載しラインでも共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各自が知り得た生活歴など情報共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課などを個人で定め可視化する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議に各自担当制とし意見を持ち寄る	利用者・家族の意向を基に申し送りノート、ケース記録、看護師・医師の意見を参考にユニット会議、全体会議で話し合い介護計画を作成している。家族への説明は面会時などに計画作成担当が説明しており、利用者本人にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケアチェック表の作成		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設との情報交換		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	訪問医療との連携(内科・歯科)・他科受診(眼科・泌尿器科)	利用者・家族の同意を得て、協力医院の内科(月2回)の訪問診療を全員が受け、歯科(週1回)は希望者が受けている。従来の眼科受診は家族同行としているが、困難時は事業所が随時適切な支援体制を取っている。家族から聞き取った受診内容は申し送りノートに記入したのちケース記録に転記し、全体で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時・必要時はラインで連携		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医からの情報提供・病院SWとの連携		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針の整備	入居時に看取り対応指針文書で事業所の取り組み体制を説明し、同意書を交わしている。事業所設立から2年半を経て、利用者全体のADL及び心身状態は安定しているが、今後は重度化・終末期や急変時ケアの習熟に努めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルの整備と研修		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成中	併設のデイサービスと合同の防災訓練(日中想定)を1回実施し、近々夜間・自然災害想定の実施を予定している。水・食品(3日分)の備蓄を準備し、非常時には職員全員にラインで一斉発信する体制となっている。地域との協力の呼びかけや連携体制が課題となっている。	あらゆる災害に対応できるよう日頃から管理者・職員間で避難経路・誘導方法を話し合い、それに基づいた訓練の繰り返しに期待する。又消防署の指導やアドバイスを受けての訓練実施と、地域への協力の呼びかけを推し進め、緊急時の明確な指揮系統の確立が望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修参加	馴れ合いでの節度が欠落しない事を意識し、一人ひとりの人格を尊重する姿勢を大切にしている。排泄時の声掛けに留意し、入浴・排泄時のドアの開閉と羞恥心への配慮を徹底して、プライバシー保護に努めている。不適切な言動・声掛けの際には、管理者が個々に注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話を心掛ける		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが動きやすい方向に行きがちなど ころもあり、ミーティングで話し合い検討する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを一緒に選ぶ、ネイルを提供する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや量に個人性を活かし、主に片づけは入居様と共に行う	献立・食材は業者に委託し、デイサービスを有している1階の厨房で調理したものを提供している。ただし、米飯と汁物は毎日ユニットで作っている。また、日曜日はすべての食事をユニットで作っている。週1回のおやつ(ホットケーキ・白玉入りおしるこ・おはぎ等)は職員と一緒に作り食事を楽しんでいる。食器の洗い物、食器拭き等の後片付けに利用者は参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取チェック表・食事量チェック表・体重チェック表など		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック欄		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表参考・声かけチェック表など	安定した立位を維持してトイレでの排泄を重視し、布パンツ(4名)リハビリパンツ(13名)おむつ(1名)と使用は様々だが、日中は全員がトイレでの排泄を行っている。便秘予防に野菜ジュース・牛乳・水素水を取り入れている。夜間時は2時間毎の見回りで、個々のリズム・パターンに応じてパット・おむつ交換を行い、良眠を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	頓服基準を排せつチェック表に記載・マシントレーニングチェック欄		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、タイミングは本人に声かけ同意いただいている	週2回の午前中の中の入浴を基本としている。二方向介助可能な浴槽で、一人ずつ湯の交換を行い、季節に合わせた入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。二人介助(1名)や同性介助(2名)を行い個々の身体機能や希望に応えている。入浴拒否の人には声掛けの工夫と相性の良い職員と交代して浴槽に浸かっての入浴支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要であれば眠前薬や頓服薬処方・昼寝の時間を決める		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時にDrに打診		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やクイズ、新聞の提供 好物の差し入れ		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスを使用し花の鑑賞の外出レク 家族様との外出・外食・外泊	日常は事業所周辺の散歩や近くの神社・コンビニへの買い物に出かけたり、2・3階のベランダに出て日光浴で気分転換を図っている。バスを利用して鶴見緑地の紫陽花見物の遠出の外出も行っている。家族と一緒に外食や外泊に出かける人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ金銭管理は家族様(後見人)である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯所持者は行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	就労トライアルを雇用し清潔の維持を主な仕事とし、協力していただいている	リビング兼食堂は広く採光も良く、大きく開けた窓からベランダに出られる。テレビ前のソファで寛げる空間を設け、壁面に季節の貼り絵・折り紙を飾り温かい雰囲気を醸し出している。館内全体に抗菌ウイルスフィルター加工を施し、消毒・換気をこまめに行い、清潔で過ごしやすい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特になにも問題なく過ごしておられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面会は居室内で椅子を入れてゆっくり過ごしていただく	居室入口に利用者の写真入りの表札を掲げ、慣れ親しんだダンス・写真・ぬいぐるみや位牌を持ち込み、これまでの生活の継続となるよう工夫している。洗面台・ベッド・クローゼット等が設置され、家具の配置は動線確保に配慮し、安全で過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所には張り紙など掲示		